

令和 2 年 5 月 9 日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17295

研究課題名（和文）集団間態度に集団内の地位は影響するか - 社会的地位の2次元モデルの検証

研究課題名（英文）Does intra-group status affect intergroup attitudes? A test of dual strategy model of social status.

研究代表者

杉浦 仁美 (Sugiura, Hitomi)

近畿大学・経営学部・講師

研究者番号：10761843

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は支配 尊敬の2種類の社会的地位が集団間態度、政治的態度に及ぼす影響を検討することである。研究1では、支配 尊敬の翻訳を行い、信頼性と妥当性を確かめた。研究2では、支配ベース地位が反平等主義志向性を介して間接的に移民受け入れ、社会福祉政策拡充等の政治的態度に影響を及ぼすことを明らかにした。研究3では、尊重は敵意的性差別を抑制するが、同時に好意的性差別を高める可能性があることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、集団間葛藤問題にかかわる政治的態度や集団間態度を規定する要因として、社会的地位の2次元モデルの有効性が明らかとなった点にある。また、パワーハラスメント防止の取り組みが強化される中、社会的地位の保有によって他者や他集団に対するネガティブな態度が形成される過程の一端を明らかにしたことは社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the effects of two kinds of social statuses -prestige and dominance- on intergroup and political attitudes. The first study confirmed validity and reliability of the translated Dominant and Prestige Scale into Japanese. The study 2 revealed that dominance based status indirectly influenced political attitudes such as immigrant acceptance and expansion of social welfare policy through anti-egalitarianism orientation. The study3 suggested that prestige based status inhibited hostile sexism, but also enhanced benevolent sexism.

研究分野：社会心理学

キーワード：社会的地位 社会的支配志向性 政治的態度 両面価値的性差別

1. 研究開始当初の背景

地位の追求は、人間の基本的欲求であると言われている (Anderson, Hildreth, & Howland, 2015)。高い地位を持つメンバーは、集団内の他のメンバーへの影響力が増し、食料や金銭などの様々な社会的資源へのアクセスが容易になると同時に役割として集団を導くことを期待される。精神面でも安定した自尊心と関連を示す一方で、地位に付随する支配性は、他者もしくは他集団との優劣を正当化し、集団内外に対する攻撃性や差別的態度へとつながることも指摘されている (社会的支配理論: Sidanius & Pratto, 1999)。

申請者はこれまで一貫して外集団への攻撃行動に対する集団内地位の影響に焦点を当てた研究を行ってきたが、集団内地位の測定は、実験参加者の主観的評価に委ねたり、課題のフィードバックを用いて能力次元で操作をしたりしてきた。しかし、人々は一体どのような情報に基づき集団内の地位を認識しているのだろうか。また、その地位は個人の中でどのように解釈され、外集団に対する態度に影響を及ぼすのだろうか。

近年、Henrich and Gil-White (2001) は、地位を獲得するための方法によって進化的に分岐した 2 種類の社会的地位が存在すると提唱している。2 種類の地位とは、他者からの尊敬・評価を基盤とする“尊敬ベース地位 (respect based status)”と、抑圧や資源の統制を通じて他者をコントロールする力を基盤とする“支配ベース地位 (dominance based status)”である (Cheng, Tracy & Henrich, 2010)。両者は共に他者に対する影響力を持っている点で共通しているが (Fiske, 2010; Henrich & Gil-White, 2001)、尊敬ベース地位は自尊心、同調性、向社会性などの特性と、支配ベース地位は自己愛、攻撃性、気難しさといった特性と関連することが示されている (Cheng et al., 2010)。また、外集団に対する攻撃行動が、行為者の支配ベース地位の認識を高めることも報告されている (Halevy, Chou, Coen, & Livingston, 2012)。

以上の先行研究から考えると、外集団に対する否定的態度を規定するのは、社会的地位の中でも他者の支配を基盤とする地位であることが推測される。そこで、本研究ではこの 2 種類の社会的地位の影響を同時に考慮し、社会的地位が集団間態度、政治的態度に及ぼす影響を検討することとした。

2. 研究の目的

各研究の具体的な目的を以下に示す。

(研究 1) 支配 尊敬尺度日本語版の作成と信頼性の検証:

2 種類の社会的地位の測定には、Cheng, Tracy and Henrich (2010) によって作成された Dominance and Prestige Scale が存在する。そこで、研究 1 では、この尺度の翻訳版 (支配 尊敬尺度日本語版) を作成し、チームで働くことの多い看護師を対象に調査を実施して尺度の信頼性と妥当性を検討した。日本の年功序列制度を考慮し、勤務年数と現在の集団内地位との関連に尊敬と支配を仲介する 2 種類のルートが存在すると予測した。

(研究 2) 2 種類の社会的地位と政治的態度との関連の検討:

研究 2 では、研究 1 で作成した尺度を使用し、社会的地位と集団間態度および政治的態度との関連を検討した。また、集団内個人レベルの要因である社会的地位が集団間レベルの変数に影響を及ぼす際に機能する媒介変数として社会的支配志向性 (以下、SDO) に着目した。

SDO とは、集団間関係のあり方に関してどのくらい階層的な関係を受容するかという個人の態度や志向性のことを示している。集団間の階層を維持するメカニズムに関わっており、差別や偏見など集団間態度を予測する要因として特に政治心理学などの分野で着目されている。

この SDO は、近年、二因子構造であるという説が主流になりつつある (Ho, Sidanius, Kteily, & Sheehy-Skeffington, 2015)。この二因子とは、支配的な集団間階層関係への積極的な支持を示す SDO-D (集団支配志向性) と、集団間の階層を維持する信念や社会政策の支持を通して集団間の平等に反対する姿勢を示す SDO-antiE (反平等主義志向性) の二つである。これらは一見同じもののように見えるが、SDO-D は外集団に対して露骨な形で非人間化を示す (Kteily, Bruneau, Waytz, & Cotterill, 2015) など直接的な差別的態度と関連する一方で、SDO-antiE は、移民に対する否定的な気分が高い (Martinovic & Verkuyten, 2013)、民主主義的ではない政府の体制を公正であると判断する傾向が高い (Ellenbroek, Verkuyten, Thijs, & Poppe, 2014) など、微妙な捉えがたい形の差別的態度と関連しているという点で異なっている。

本研究でもこの二因子を採用した。まず、支配ベース地位は支配を是とする考え方を促進し、その価値観が集団間階層に対する志向性にも拡張すると考えた。つまり、支配と SDO-D および格差の拡大を支持する政策との間に正の関連が見られると予測した。逆に、尊敬ベース地位は平等を是とする考え方を集団間階層の志向性に反映させると考えた。つまり、尊重と SDO-antiE の間には負の関連が、尊重と格差の縮小を支持する政策との間には正の関連が見られると予測した。

(研究 3) 2 種類の社会的地位と性差別的態度との関連の検討

SDO は政治的態度だけでなく、様々な形で現れる集団間の差別的態度にも影響を及ぼす。そこで研究 3 では、社会的地位と性差別 (セクシズム) の関連について検討することとした。性差別の測定に Glick and Fiske (1996) の両面価値的性差別尺度を用いることで、直接的な差別的

態度と、微妙な捉えがたい形の差別的態度の弁別を試みた。

3. 研究の方法

(研究1)

A 大学病院の看護師 982 名を対象に質問紙調査を行った。27 部署の正看護師から 527 部 (女性 487 名, 男性 30 名, 不明 10 名) の回答を回収した (回収率: 53.7%)。年齢の内訳は、20 歳代 235 名, 30 歳代 136 名, 40 歳代 90 名, 50 歳以上 56 名, 不明 10 名であった。看護業務経験のある研究者より助言を受け、師長は業務内容の異なるため分析から除外した。

調査項目は、以下のとおりである。看護師としての勤務年数 ($M = 10.28$)、現在勤務する病院での役職、尊敬 支配の程度: Cheng, et al. (2010) が作成した Dominance and Prestige Scale を翻訳して用いた (17 項目, 7 件法)。集団内地位: 看護師チーム内での自身の立場を 1 項目のビジュアル・アナログ・スケールで回答した。直線上のラベルは「チーム内で最も低い地位 (0)」、「中間 (50)」、「チーム内で最も高い地位 (100)」であった。看護師アイデンティティ (以下, ID): Doosje et al. (1995) をもとに作成した看護師 ID 尺度 (4 項目, 5 件法, $\alpha = .83$) を用いた。これについては、いずれも自己評価で回答を求めた。

(研究2)

20 歳~69 歳の社会人 1400 名 (男女各 700 名) を対象に Web 調査を行った。ただし、複数の尺度ですべて同じ回答をした 80 名を除いたため、1320 名 (平均年齢 = 45.71 歳, 男性 651 名, 女性 669 名) を分析の対象とした。

調査項目は、以下のとおりである。フェイスシート (性別, 年齢, 個人収入, 世帯収入, 最終学歴) 尊敬 支配の程度: 研究 1 で作成した支配 尊敬尺度日本語版を用いた (17 項目, 7 件法)。SDO: SDO₇ 尺度日本語版 (水野・杉浦・三船・中島, 2018) を用いた (16 項目, 7 件法)。政治的態度: 三船・横田 (2018) を参考に「移民受入れ賛成・社会福祉政策拡充・死刑制度存続・国防費減額・警察の権限強化・奨学金の自己責任論・憲法 9 条改正反対・竹島強硬策・尖閣強硬策・北方領土強硬策・核開発反対への強硬策・米軍基地移設反対」の 12 項目を使用した。

(研究3)

20 歳~69 歳の社会人 700 名 (男女各 350 名) を対象に Web 調査を行った。ただし、複数の尺度ですべて同じ回答をした 7 名を除いたため、693 名 (平均年齢 = 45.83 歳, 男性 347 名, 女性 346 名) を分析の対象とした。

調査項目は、以下のとおりである。フェイスシート (性別, 年齢, 個人収入, 世帯収入, 最終学歴) 尊敬 支配の程度: 研究 1 で作成した支配 尊敬尺度日本語版を用いた (17 項目, 7 件法)。SDO: SDO₇ 尺度日本語版 (水野・杉浦・三船・中島, 2018) を用いた (16 項目, 7 件法)。両面価値的性差別尺度: Ambivalent Sexism Inventory (Glick & Fiske, 1996) の日本語版 (宇井・山本, 2001) を用いた (22 項目, 7 件法)。

4. 研究成果

(研究1)

支配-尊敬尺度日本語版について、探索的因子分析 (最尤法, プロマックス回転) の結果、先行研究どおりの 2 因子に分かれ、構成概念妥当性が確認された。ただし、「チームのメンバーは、私のようになりたくないと思っている (逆)」を含む 3 項目はダブルローディングのため除いた。係数を算出したところ、支配因子 (8 項目) は $\alpha = .78$, 尊敬因子 (6 項目) は $\alpha = .80$ と十分に高い値を示した。因子間相関は $r = .27$ であった。

変数間の関連を検討するために、構造方程式モデリングによるパス解析を行った。勤務年数と集団内地位の関連を、尊敬、支配が仲介するモデルを想定したが、適合度は $GFI = .923$, $AGFI = .730$, $RMSEA = .207$, $AIC = 155.372$ と低く、仮説は支持されなかった。そこで、勤務年数、尊敬、支配と相関の高い看護師 ID を追加し、想定される逐次モデルの中で最も適合度の高いモデルを採用した (Figure1)。適合度指標は $GFI = .998$, $AGFI = .991$, $CFI = 1.000$, $RMSEA = .000$, $AIC = 25.955$ であった。

パス解析の結果、勤務年数とともに看護師 ID が高まり、尊敬を経て集団内地位を認識するルート、および勤務年数とともに支配を経て集団内地位を認識するルートの 2 種類が示された。

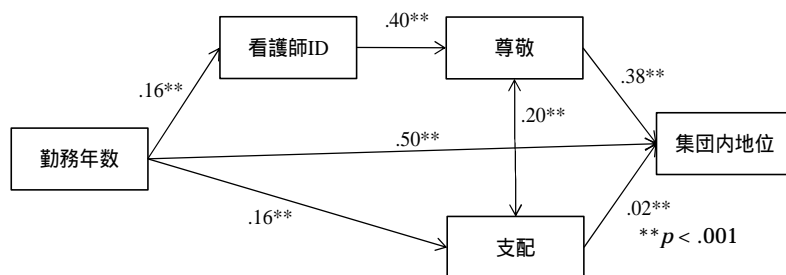


Figure 2. 集団内地位の認識に至る 2 種類のルート

係数は標準化回帰係数を示す。誤差項は省略している。

(以下同様)

ただし、支配から集団内地位へのパス係数は $-.02$ と小さかった。また、勤務年数から尊敬への直接パスは有意ではなく、勤務年数が長くても看護師 ID を介さないと尊敬は高まらないことが示唆された。

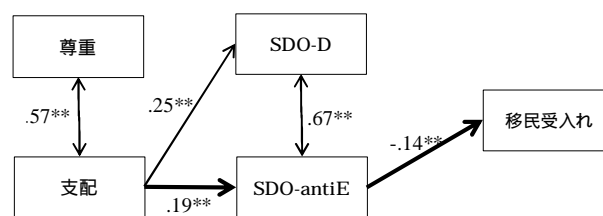
以上の結果から、支配-尊敬尺度は翻訳版においても先行研究と同様に 2 因子構造が確認できること、勤務年数とともに集団内地位を認識する過程において、尊敬と支配を介した 2 種類のルートが存在することが明らかとなり、仮説はおおむね支持された。ただし、尊敬については、勤務年数の長さとともに集団アイデンティティが高まる必要があること、支配については、尊敬と比べて主観的な集団内地位との関連が高くはないことが分かった。

(研究 2)

研究 2 では、研究 1 とは異なり社会人を対象とし、チームのメンバーではなく周囲の人々との関係性について尋ねたため再び支配-尊重尺度日本語版について探索的因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行った。その結果、先行研究どおりの 2 因子には分かれなかった。確認的因子分析を実施したが、共通性の低い 5 項目を削除しても適合度指標は低かった (GFI = .883, AGFI = .828, CFI = .885, RMSEA = .111, AIC = 965.669)。ただし、係数は尊重 = .88, 支配 = .77 と十分に高い値が得られたため、先行研究の因子構造を優先することとした(因子間相関 $r = .77$)。

2 種類の社会的地位と各変数との相関を算出した。片方の因子を変数として使用する際にはもう片方の因子を統制し、偏相関分析を実施した。SDO については、支配と SDO-D の間に $r = .25$ ($p < .01$)、SDO-antiE との間に $r = .20$ ($p < .01$) の関連が見られた。一方、尊重と SDO-D の間に $r = -.09$ ($p < .05$)、SDO-E との間に $r = -.08$ ($p < .05$) の関連が見られたが、係数が低いことから尊重による影響はほぼ見られないと判断した。一方、社会的地位と政治的態度との関連を検討したが、偏相関係数が .10 を上回るものはなかった。

そこで、社会的地位が SDO に影響を及ぼし、さらに SDO が政治的態度に影響を及ぼすという間接的な影響を考慮したモデルの検討を行った。支配から SDO-antiE へのパスとともに間接効果が認められたのは、移民受入れ (Figure2)、国防費減額、奨学金の自己責任論、核開発反対への強硬策、米軍基地移設反対へのパスであった。支配から SDO-D へのパスとともに間接効果が認められたのは、警察の権限強化へのパスのみであった。支配から SDO-antiE、SDO-D の両方のパスと間接効果が認められたのは、社会福祉政策拡充、憲法 9 条改正反対へのパスであった。



GFI=.994, AGFI=.979, CFI=.990, RMSEA=.052 (95%CI = [.022, .084]), SRMR=.036, AIC = 38.421

Figure2. 社会的地位, SDO, 政治的態度 (移民受入れ) との関連

以上の結果から、仮説は一部支持された。社会的地位の中でも支配ベース地位は、集団間階層の志向性に影響を及ぼし、間接的に格差を拡大する政策の採用につながっていたが、尊敬ベース地位は関連していないことが分かった。

(研究 3)

再び支配-尊重尺度日本語版について探索的因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行ったが、研究 2 と同じく先行研究どおりの 2 因子には分かれなかった。確認的因子分析を実施したが、共通性の低い 5 項目を削除しても適合度指標は低かった (GFI = .878, AGFI = .815, CFI = .878, RMSEA = .120, AIC = 629.411)。ただし、係数は尊重 = .91, 支配 = .78 と十分に高い値が得られた(因子間相関 $r = .75$)。

2 種類の社会的地位と各変数との相関を算出した。片方の因子を変数として使用する際にはもう片方の因子を統制し、偏相関分析を実施した。支配-尊重尺度については研究 2 の結果が再現された。社会的地位とセクシズムとの関連については、研究 2 と異なり直接の関連が認められた。支配と敵意的セクシズムの間に $r = .21$ ($p < .01$)、尊重と敵意的セクシズムの間に $r = -.13$ ($p < .01$)、好意的セクシズムの間に $r = .10$ ($p < .01$) の関連が見られた。

続いて、社会的地位と SDO、セクシズムの関連について検討した。その結果、間接効果が見られたのは支配から SDO-antiE を経て敵意的セクシズムへと至るパスのみであった。

さらに、尊重と敵意的セクシズムの間に負の関連が見られたことに着目し、尊重が差別的態度を抑制するか検証を行った (Figure3)。今回用いた両面価値的性差別尺度は、女性に対する差別的態度を尋ねる内容であったため、性別を要因に入れて調整効果を検討したところ、男性は周囲の人々からの尊重を認識するほど敵意的セクシズムの得点が低くなることが分かった。ただし、好意的セクシズムについては、性別関係なく尊重との間に正の関連があることも分かった。

研究のまとめと今後の課題：

本研究から支配 尊敬尺度日本語版の信頼性、妥当性が確認された。ただし、周囲の人々との関係性について尋ねる際、集団を指定せず抽象的に回答を求めた研究2,3では探索的因子分析において想定どおりの因子に分かれなかった。因子構造を安定させるためには、あらかじめ特定の集団を指定する手続きが必要だと考えられる。また、支配ルート地位は、集団間の平等に反対する志向性を介して政治的 attitude および敵意的セクシズムに影響を及ぼしていた。この結果は、集団内個人レベルの地位が集団間態度へと影響を広げていく一つの過程を示していると考えられる。さらに尊重ルート地位が女性に対する男性の敵意的セクシズムを抑制する効果を持つことが分かった。しかし、同時に好意的セクシズムを高めることも明らかとなったため、今後、集団内間の態度に対する尊重の持つ正・負の機能を明らかにし、整理していくことが課題である。

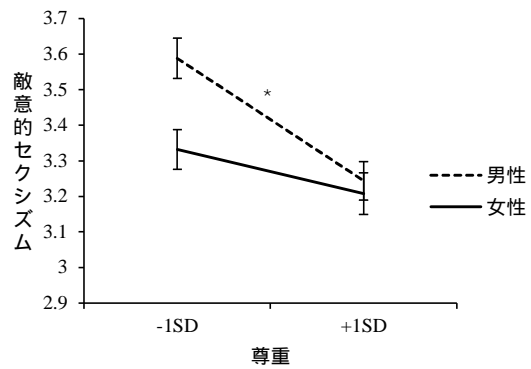


Figure3. 尊重による敵意的セクシズムの抑制

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sugiura, H., Mifune, N., Tsuboi, S., & Yokota, K	4. 巻 104
2. 論文標題 Gender differences in intergroup conflict: The effect of outgroup threat priming on social dominance orientation.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Personality and Individual Differences	6. 最初と最後の頁 262-265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1016/j.paid.2016.08.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 水野君平・杉浦仁美・三船恒裕・中島寿宏
2. 発表標題 日本語版Social Dominance Orientation Scale ver.7 作成の試み
3. 学会等名 第59回日本社会心理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉浦仁美・坪井翔・三船恒裕・横田晋大
2. 発表標題 実効性比と協力期待 企業データを用いた分析
3. 学会等名 第58回日本社会心理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉浦仁美, 早瀬良, 坂田桐子
2. 発表標題 集団内地位を規定する2種類のルート
3. 学会等名 日本社会心理学会第57回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉浦仁美, 坪井翔, 三船恒裕, 横田晋大
2. 発表標題 社会的支配志向性に対する外集団脅威の状況手がかりの影響 性差に着目した検討
3. 学会等名 第9回日本人間行動進化学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sugiura,H
2. 発表標題 Antecedents of Sexism in Japan: Social Dominance Orientation and Ambivalent Sexism
3. 学会等名 Society for Personality and Social Psychology 2017 Annual Convention.
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----